

世界記録樹立

ら、多分私は水泳をやっていないからって、まあ練習をサボると、自転車まで迎えにきておられました。とにかく熱心でしたね。

この頃は、将来水泳でということは、思ってもいませんでした。練習はきつかったり、夜七時、八時までやらされて、家に帰ったら手伝いどころではないでしょう。やはり父や母は、文句をいいますね。

練習は、池の中に五十メートルの木の枠でつくったプールがあり、そこで泳いでいました。

この板に、青いぬるぬるした藻がつくんです。スタートやターンのとき、蹴るとずうっと横すべりして、前に進まないんです。

それ以来ですね、スタートとターンが下手だと言われまして、最後まで上手だなんて言われたことはないですよ。(笑)

コースは、縄を引張って、ところどころ木片が結びつけてあるロープでした。引っかけると、ものすごく痛かったのを覚えてます。

私の泳ぎは、人より柔らかい足首と強い脚力が武器になっていましたね。それだけです早かった理由というのは、それだけ取り得てこまできたわけです。それでも走るの全然駄目でしたね。(笑)

回子供達に教えています。その外は、お母さん方に教えているんです。

お母さん方に何故教えているかといいますと、ご婦人の健康を保持・増進するということがありますが、やはり子供に水泳がよいものだというのを教えるには、親に泳ぎのよさを分ってもらう必要があるんですね。ご自分のお子さんなり、お孫さんに、ご自分で水泳を教えられるような、お母さん、お婆ちゃんになって欲しいというのが私の願いです。こんな素適な関係はないんじゃないかということ、今一生懸命教えているわけなんですけどね。

現在スイミングクラブが随分普及していますね。ここの水泳は、ただ選手を育てるだけではなく、青少年の非行防止にもなりうるし、目標にもなるわけですね。そういう意味では、スイミングクラブはこれから大事な位置に立つのではないかと思えます。

プールは地方では学校にありますけど、オープンですね。オープンは二ヶ月しか使えないんです。せいぜい使えて三ヶ月、もう少し頑張ると四ヶ月、あとの八ヶ月は遊んでいるわけですね。そういう遊ばせるようなのを、何故考えずに金を使ってつくるんでしょうかね。そこが一番私達が残念に思うところです。学校のプールに覆いをするだけでも、二ヶ月

は伸びます。その中にお湯をおくりこむだけで、一年中できるわけですね。そういう施設を、少しでも増して欲しいと思います。そうなる学校は、雨の日、別にグラウンドでなくても、体育館かプールか、どちらか使えるわけです。日本の水泳界にしても、低迷を乗り越えるための、ひとつの妙案になるんじゃないかとも思っていますよ。

泳ぎを覚えてしまえば、プールさえあれば、一人でいっても泳げます。テニスとか野球とかは、相手がいないとできないでしょう。

年中市民が、泳げる場所を確保してやること、そういうサービスが、これから必要ではないでしょうか。暖かい熊本でも、泳げる期間は短かいです。体育館は、随分立派なものがあるじゃないですか。室内プールがないのは、本当に残念ですよ。城内プールの二十五メートルに、覆をかけてやるだけでも随分と違います。

できれば是非室内プールを、つくって欲しいですね。知事さんにもお願ひ下さいよ。

モントリオールも余りばつとしませんでしたね。外国は現在室内プールが主で、ごく当り前なんです。日本が勝っていた頃は、余り外国も室内プールがなかった頃ですね。室内プールを持つように

筑紫女学園高校に入学したきつかけといえますと、天理市で中学生の第一線級を集めた合宿がありました。筑紫女学園の人達も一語でした。そのときコーチの吉田先生がいらっしやっていて、私、丁度その先生の隣に寝たらしくて、とにかくくたびれていましたから、寝相が悪く一回転したりして、先生を蹴つとばしたんです。「お前をしを蹴つとばしたなあ」(笑)と、こういうことで、随分親しくなりましたね。

進学をきめなければいけないときに、奈良県とかいろいろ遠方からの勧誘があったんですが、まだ中学生で年もいっていないし、両親のそばを離れたくないということもありましたし、吉田先生を頼って福岡に行ったのです。筑紫では、新日鉄の黒佐さんが練習はみてあげるといふことでしたし、それではということでも、すぐ帰れるからということもありました。父は賛成も何も、ともかくそのときは、もう反対のしようがなかったやうです。

学校での練習は、普通授業が終わったあと、四時から七時ないし八時まで、五、六千メートル泳いでいましたね。世界の話は、高校には入った頃からで

ていました。世界記録を出すには、五十メートルを何秒で泳いで、次に七十五メートル、百メートル、百五十メートルは何秒でと時間を区切ってあって、これを泳ぐには、五十メートルを、何十本かは必ず何秒でいかに早く泳ぐというふうな練習が課せられるんです。だから例えば、三十五秒では入らなければいけないとしたら、十本とも三十五秒で軽くいけるような気持ちでやれと、こうなるわけでしょう。それが、三十六秒になり三十七秒になり三十八秒、その分だけ増され、十本ですむところが、二十本になり三十本になり三十九秒で増えていくんです。いながら罰形式ですね。一寸でも気を緩めると、緩めた分だけもう一回やり直しとか、そういう練習ばかりでしたね。

世界記録をだしたのは、二百メートルですが、記録は二分三十七秒一で、二年生の夏だったと思います。日本選手権だったかどうか、そのあたりは憶えていません。当時国際試合では、二百メートルはまだやっていませんでした。正式には入るようになったのは、つい先頃のメキシコ・オリンピックからです。

オリンピックは、ローマと東京に出場しました。ローマのときは、高校三年生で世の中のこと知りませんね。自分のやりたいことを、やってみるんだという感じしかなかったものですから、期待を

なっていて、体力的に優れているうえに、練習量が日本より多いんですから、勝つのが当り前なんです。

コーチシステムも、この頃随分発達してきました。レベルも外国と同じだと思います。

何が遅れているかというと、室内プールがないということ。それに小学校五・六年になると、塾通いが始まるという日本の特殊な教育環境は問題ですね。

今後日本が世界の検舞台に再び登場するには、単に選手ひとり頑張るということ、選手の処遇の仕方であるとか、私たち個人の力はどうしようもない問題については、やはり公の力の後押しが必要だと思えます。

熊本を思う

熊本の水泳界は、苗床的な感じですね。素質のある選手はいるんですが、そのままだけは伸びません。他県に出さなければ、移植しなければ花を咲かせないですね。残念なこと。

それから、私が大事にしたいと思うのは、熊本人が持っている独特な気性ですね。いつまでも、肥後もっこそいでいて欲しいと思います。多分そういうのを保持しておられる方が、外にでられても、名をなしていらっしやるんじゃないでしょう

背負っているという悲しさはありませんでした。それより初めて飛行機に乗って海外にでたんだという興奮の方が強かったように思います。こんなことを言うと怒られそうですが、早く試合を終えて見物でもしたいという気持ちでした。

決勝の思い出としては、タッチした途端に周りをみたら四人いましたので、三着には入っているなんて思ってもいませんでした。もう駄目だと思って、さっさと控室に引き揚げたら、コーチが呼びにきて、さうですかといった調子でした。表彰台に上ったときの感じは忘れませんが、ただお月さんがきれいに出ていましたね。スタートするときも、バックですから、お月さんが見えていたのを覚えてます。

東京大会のときは、二十歳過ぎていましたね。大体何秒位が優勝するということも分っていましたからね。順当にいても七・八番とかいう計算はできていましたよ。それでも決勝は、自分の記録よりいい記録がでていましたので、それ以上望んでも無理な話でした。だから別に後悔はしていませんし、あれが精一杯だと精神的にはさっぱりしたものがありました。

室内プールの設置を

今の仕事は、スイミングクラブで週四

か。とにかく熊本県人は、みんな優秀な人ばかりですよ。熊本と聞いただけですぐ握手したくなるような気持ちになります。

泳ぎ続けます

今後も水泳は続けます。私から水泳をとりあげられたら、何んにも残りませんから。(笑)水泳がいいということ、皆んなに広めたい気持ちがあります。

歩けない赤ん坊から、年寄りまで水泳が一番いいということ。赤ん坊は、陸の上ではじっと寝ているだけで、水の上で浮かしておくだけで、手と足を動かします。動かすと、体に刺激をあたえ、脳の発達を促します。これから二十世紀の人間をつくるには、やはり赤ん坊のときから刺激をあたえて、いろんなことに耐えうる人間をつくる必要があると思うんです。

また例年八月頃に、今年の水死は何人と発表がありますね。幼児の場合交通事故と水死の数は、大体同じなんです。たった十五センチしか水がは入ってなくても、小さい子供は溺れるんです。そんな事故も母親がお風呂の中で教えることで防止できるんですよ。一人でも子供を水の事故からなくす運動を、私はやりたいと思っています。